

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : **2003-024127**

(43)Date of publication of application : **28.01.2003**

(51)Int.Cl.

A45D 1/00

(21)Application number : **2001-217646**

(71)Applicant : **HAKKO KOGYO KK**

(22)Date of filing : **18.07.2001**

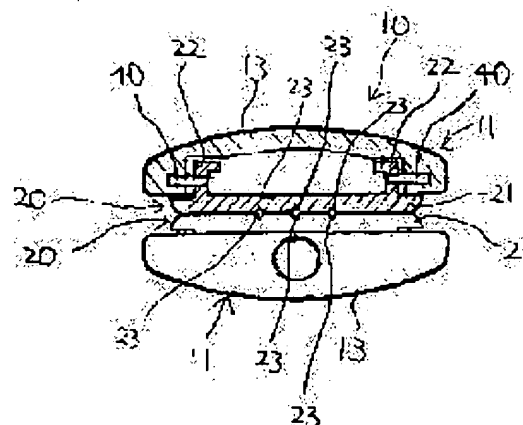
(72)Inventor : **OKABE KENJI**

(54) HAIR IRON

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To safely ironing a lock of the hair from a hair root part near a head skin by restraining high-temperature steam of a perm liquid produced at a time of pinching the lock of the hair from discharging onto a head skin side.

SOLUTION: A pair of heat plates 20, 20 is fixed on facing faces of both arm parts 11, 11 of a V shaped grip 10 energized in an opening direction. Each of grooves 23 extending in the longitudinal direction of the arm parts 11, 11 is provided on each surfaces of the pair of the heat plates 20, 20. The grooves 23 open to at least front end sides of the arm parts 20, 20. Increasing a quantity of a steam discharge in the longitudinal direction of the arm parts 20, 20 decreases a quantity of a steam discharge to the head skin side.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2003-24127

(P2003-24127A)

(43)公開日 平成15年1月28日(2003.1.28)

(51)Int.Cl.⁷

A 4 5 D 1/00

識別記号

5 0 4

5 0 2

5 0 3

5 0 7

F I

A 4 5 D 1/00

テームコード(参考)

5 0 4 B

5 0 2 B

5 0 3 A

5 0 7 C

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全 5 頁)

(21)出願番号

特願2001-217646(P2001-217646)

(22)出願日

平成13年7月18日(2001.7.18)

(71)出願人 593087916

八光工業株式会社

大阪府大阪市生野区生野西1-16-11

(72)発明者 岡部 健二

大阪府東大阪市新池島町1丁目6番22号

(74)代理人 100085936

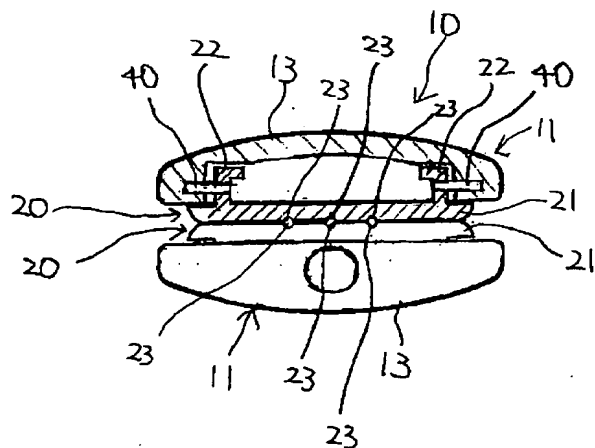
弁理士 大西 孝治 (外1名)

(54)【発明の名称】 ヘアアイロン

(57)【要約】

【目的】 頭髮を挟んだときに発生するパーマ液の高温蒸気が頭皮の側へ排出されるのを抑制し、頭皮に近い頭髮の根元部分から安全にアイロン掛けを行う。

【構成】 開方向に付勢されたV字型グリップ10の両腕部11、11の対向面に一對のヒートプレート20、20を取り付ける。一對のヒートプレート20、20の各表面に、腕部長手方向に沿って延びる溝部23を設ける。溝部23は、少なくとも腕部先端側に開放し、腕部長手方向の蒸気排出量を増やすことより、頭皮の側への排出量を減らす。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 開方向に付勢されたV字型グリップと、該V字型グリップの両腕部対向面に取り付けられた一対のヒートプレートとを備えており、前記一対のヒートプレートのうちの少なくとも一方の表面に、前記V字型グリップの腕部長手方向に沿って延び、少なくとも腕部先端側に開放した1又は複数の溝部が設けられていることを特徴とするヘアアイロン。

【請求項2】 前記溝部が、両方のヒートプレートの表面に存在することを特徴とする請求項1に記載のヘアアイロン。

【請求項3】 両方のヒートプレートの表面に存在する溝部が、相対向する位置に設けられていることを特徴とする請求項2に記載のヘアアイロン。

【請求項4】 前記V字型グリップのヒートプレートより基端側の腕部対向面に、凸状の遮蔽部が、ヒートプレートに接近して設けられていることを特徴とする請求項1、2又は3に記載のヘアアイロン。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、V字型グリップの両腕部対向面に取り付けられた一対のヒートプレート間に頭髮を挟んで、各種のパーマ処理を行うV字型グリップ形式のヘアアイロンに関し、各種のパーマ処理のなかでも特にストレートパーマに適したヘアアイロンに関する。

【0002】

【従来の技術】ストレートパーマに使用されるヘアアイロンとして、特開2001-137038号公報に記載されているようなV字型グリップ形式のヘアアイロンがある。この形式のヘアアイロンは、開方向に付勢されたV字型グリップの両腕部対向面に一対のヒートプレートを取り付けた構成になっており、V字型グリップを操作して一対のヒートプレート間に所定量の頭髮を挟み、この状態で、頭髮を引き伸ばす方向へヒートプレートを移動させる、所謂アイロン掛けの操作により、頭髮の縮れ等を取り除いてこれを真直化する。

【0003】一対のヒートプレートは、通常は両方が加熱されるが、片方のみが加熱される構成のものもある。ヒートプレートの加熱温度は、温度コントローラにより、任意の設定温度に自動管理される。設定温度としては、例えばストレートパーマの場合、百数十℃が選択される。パーマ処理に際しては、頭髮にパーマ液を塗布するのが通例である。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】このようなV字型グリップ形式のヘアアイロンを使用してストレートパーマを行う場合、一対のヒートプレート間に頭髮を挟むと、頭髮に塗布されているパーマ液が瞬間的に蒸発し、高温の蒸気が発生する。この蒸気は、ヒートプレート間から四

方へ排出され、傾向としては毛髪に沿って比較的多く排出される。このため、相当量の高温蒸気が頭皮の側へ排出される。また、ヒートプレートの面積が大きくなればなるほど、ヒートプレート内において高温蒸気がこもる。このため、こもった高温蒸気が毛髪を介して頭皮へと伝わるため、非常に熱く感じ不快感を覚える。

【0005】この高温蒸気が頭皮に直接当たったり、毛髪を介して高温蒸気の熱が頭皮に伝わると、非常に熱く感じ、不快感であるばかりか、火傷を引き起こす危険性さえある。このため、V字型グリップを頭皮に一定以上に近づけることができず、頭皮から離れた位置からしか、アイロン掛けを行うことができない制約がある。この制約のため、仕上がりが不十分になるのを避け得ない。

【0006】本発明はかかる事情に鑑みて創案されたものであり、頭皮に近い頭髮の根元部分から安全にアイロン掛けを行うことができるヘアアイロンを提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明に係るヘアアイロンは、開方向に付勢されたV字型グリップと、該V字型グリップの両腕部対向面に取り付けられた一対のヒートプレートとを備えており、前記一対のヒートプレートのうちの少なくとも一方の表面に、前記V字型グリップの腕部長手方向に沿って延び、少なくとも腕部先端側に開放した1又は複数の溝部が設けられたものである。

【0008】本発明に係るヘアアイロンにおいては、一対のヒートプレート間に頭髮を挟んだときに発生するパーマ液の蒸気が、プレート表面に形成された溝部をガイドとして、腕部長手方向へ多く排出されるようになる。また、ヒートプレート内にこもった高温蒸気も腕部長手方向へと多く排出されるようになる。その結果として、頭髮に沿った方向の排出が抑制され、その分、V字型グリップを頭皮に近づけることができる。また、後で詳しく説明するが、溝部を設けることに伴い、乾燥時間の短縮と、それによるパーマ液の薬効の向上を図ることができるとともに、両側のエッジにより、頭髮の縮れ等を矯正する機能が向上し、この点からも仕上がり効果が上がる。

【0009】プレート表面に形成される溝部は、1本でも複数本でもよい。複数本の方が腕部長手方向への排出が促進され、頭髮に沿った方向の排出が抑制される点から好ましい。また、溝部の両側エッジによる縮れ矯正効果が上がる点からも好ましい。溝部は又、一対のヒートプレートの両方の表面に設けてもよいし、片方の表面に設けてもよい。腕部長手方向への排出は、両方の表面に設けた方が、より促進される。両方の表面に設ける場合、相対向する位置に存在させるのがよい。そうすることにより両面側の溝部が合体して大きな蒸気流通路が形

成され、腕部長手方向への排出がより促進される。

【0010】溝部の端は、少なくとも腕部先端側で開放する必要がある。これにより、高温蒸気を腕部先端側へ排出することができる。腕部基端側で開放した場合は、グリップ位置の方へも蒸気が排出され、頭髮に沿った方向の排出がより効果的に抑制される。但し、この蒸気はグリップする手の方へ向かうため、手を保護する観点から、V字型グリップのヒートプレートより基端側の腕部対向面に、凸状の遮蔽部を、ヒートプレートに接近して設けるのがよい。

【0011】即ち、この遮蔽部は、腕部長手方向の両側へ蒸気を排出し、頭髮に沿った方向の排出を効果的に抑制した場合に、グリップを掴む手をその蒸気から保護するのに有効である。

【0012】

【発明の実施の形態】以下に本発明の実施形態を図面に基づいて説明する。図1は本発明の一実施形態を示すヘアアイロンの平面図、図2は同ヘアアイロンの側面図で閉じた状態を示す。また、図3は図2中のA-A線矢示図、図4は同ヘアアイロンに使用されたヒートプレート

の5面図である。
【0013】本実施形態に係るヘアアイロンは、図1及び図2に示すように、V字型グリップ10と、V字型グリップ10の両腕部対向面に取り付けられた一対のヒートプレート20、20と、ヒートプレート20、20を加熱するためにV字型グリップ10の基端部に接続された給電コード30とを備えている。

【0014】V字型グリップ10は、2つの腕部11、11を基端部でヒンジ部12により回動可能に連結した構造であり、ヒンジ部12に内蔵されたスプリングによる開方向の付勢により、腕部11、11が所定角度で開いた状態に弾性保持される。2つの腕部11、11の先端部は、ヒートプレート20、20の取り付けのために横に広がった偏平部13、13とされ、後端側のほぼ半分は手で握るグリップ部14、14になっている。

【0015】ヒートプレート20、20は、耐熱性の樹脂板或いは金属板等からなり、腕部11、11の先端部に形成された偏平部13、13の対向表面に取り付けられている。ヒートプレート20、20より基端側の対向表面には、凸状の遮蔽部15、15がヒートプレート20、20に接近して設けられると共に、凹部と凸部の組み合わせからなる固定部16が、遮蔽部15、15の更に基端側に位置して設けられている。

【0016】遮蔽部15、15は、ヒートプレート20、20の横幅と同じかこれよりやや広い横幅を有し、腕部11、11を閉じた状態で噛み合せて基端側への蒸気逸散を防止する。固定部16は、腕部11、11を閉じた状態で凸部が凹部に嵌合して、腕部11、11の横方向の位置ずれを防止する。腕部11、11の先端部に形成された偏平部13、13の反対向側の表面には、フ

ェルトからなる保護シート17、17が貼り付けられている。

【0017】ヒートプレート20、20は、図3及び図4に示すように、偏平部13、13の対向表面より突出する平板状の本体部21と、本体部21を固定するためにその裏面に設けられた両側一対のリブ部22、22とを有している。本体部21の表面には、腕部11の長手方向に平行な複数本の溝部23が設けられている。溝部23は、ここでは3本であり、本体部21の幅方向中央部及び両側部に存在している。各溝部23は、断面がV字形又はU字形であり、両端とも本体部21の両端に達して開放している。

【0018】ヒートプレート20のリブ部22、22は、本体部21の幅方向中央を挟んで対称形状に形成されており、偏平部13との固定のために、各先端部には切り込み24が、また各基端部には突起25がそれぞれ設けられている。

【0019】ヒートプレート20、20は、一方の腕部11（図では上側の腕部11）では、本体部21が偏平部13の対向表面に平行となるように、両側の切り込み24、24に係合するピン40、40により先端部が固定され、偏平部13への突起25の係合により後端部が固定されている。また、他方の腕部11（図では下側の腕部11）では、本体部21が先端部を支点として傾動するように、切り込み24、24に係合するピンにより先端部が回動自在に支持され、後端部が突起25をストッパーとして本体部21に直角な方向へ移動すると共に、その後端部が図示されないスプリングにより偏平部13から離れる方向へ付勢されている。

【0020】この付勢により、V字型グリップ10の腕部11、11を閉じたときに、ヒートプレート20、20の本体部21、21が平行になって、表面同士が全面にわたって密着する。この状態で、ヒートプレート20、20の対向する溝部23、23同士が合体し、断面が大きな蒸気流通路が形成される。

【0021】給電コード30は、V字型グリップ10の腕部11、11内、具体的にはヒートプレート20、20の裏面側に配置された図示されないヒータに通電を行い、ヒートプレート20、20を加熱する。給電コード30の途中には、オンオフスイッチを兼ねる温度コントローラが取り付けられている。

【0022】次に、本実施形態に係るヘアアイロンの使用方法及び機能について詳細に説明する。

【0023】ヘアアイロンの基本的な使用法は、従来と同じである。即ち、頭髮にパーマ液を塗布し、ヒートプレート20、20を所定温度に加熱した状態で、V字型グリップ10を操作して、ヒートプレート20、20間に所定量の頭髮を挟む。このとき、頭髮に塗布されたパーマ液が蒸発し、高温の蒸気が発生する。蒸気はヒートプレート20、20間の頭髮に沿ったプレート幅方向

に排出されるが、ヒートプレート20、20の対向表面に溝部23、23が設けられているため、腕部11、11の長手方向にも比較的多くの量が排出される。

【0024】このため、ヒートプレート20、20間の頭髮に沿ったプレート幅方向での排出量が相対的に減少し、頭皮の方向へ排出される蒸気量も減る。その結果、ヒートプレート20、20の取り付け部である偏平部13、13をより頭皮に近づけることが可能になり、頭髮のより根元部分からアイロン掛けを行うことが可能になる。

【0025】また、縮れ毛の特徴は断面が不定形な点にあるとされている。一方、直毛は断面が滑らかな楕円である。ヒートプレート20、20間に頭髮を挟んだアイロン掛けは、不定形な毛髪断面を滑らかな楕円に整形することによっても、直毛化を図る。ヒートプレート20、20の各表面に溝部23を設けると、アイロン掛けの際に溝部23の両側に存在するエッジ部で毛髪が擦られることにより、不定形な毛髪断面を滑らかな楕円に整形する機能が增大する。

【0026】従って、本実施形態に係るヘアアイロンを使用すれば、アイロン掛けの開始位置を頭皮に近づけ得る点と合わせ、溝部23の両側に存在するエッジ部で毛髪が擦られ、楕円化が促進される点からも、仕上がり効果が增大する。

【0027】また、腕部11、11の長手方向に排出される蒸気の量が増えることにより、グリップ部14、14の側へ排出される蒸気量も増加するが、腕部11、11を閉じた状態で噛み合う遮蔽部15、15が、ヒートプレート20、20より基端側の対向表面に設けられているため、グリップ部14、14を握る手が蒸気から効果的に保護される。

【0028】ちなみに、溝部23の深さは0.5～1.5mmが適当である。この深さが小さすぎると蒸気の排出効果が不十分となる。また、片方のヒートプレート20に対し本数は1～5本が適当である。この本数が少なすぎると蒸気の排出効果が不十分となる。

【0029】

*【発明の効果】以上に説明したとおり、本発明に係るヘアアイロンは、V字型グリップを構成する両腕部の対向面に取り付けられた一対のヒートプレートのうちの少なくとも一方の表面に、腕部長手方向に沿って延び、少なくとも腕部先端側に開放した1又は複数の溝部を設けることにより、ヒートプレート間に頭髮を挟んだときに発生するパーマ液の高温蒸気が頭皮の側へ排出されるのを抑制できる。このため、頭皮に近い頭髮の根元部分から安全にアイロン掛けを行うことができる。また、溝部の両側エッジにより頭髮の縮れ等を効果的に矯正できる。これらの相乗により、アイロン掛けの仕上がり効果を飛躍的に高めることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施形態を示すヘアアイロンの平面図である。

【図2】同ヘアアイロンの側面図である。

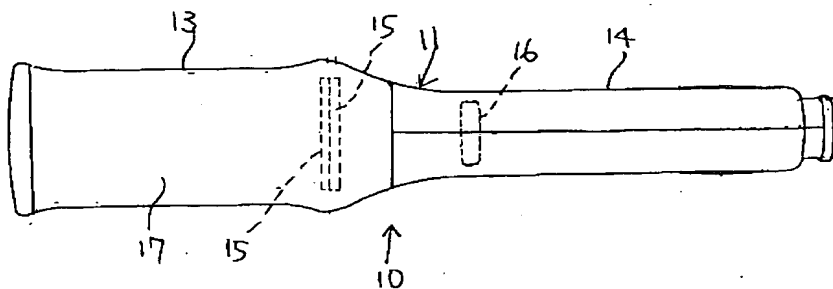
【図3】図2中のA-A線矢示図である。

【図4】同ヘアアイロンに使用のヒートプレートの5面図で、(a)は平面図、(b)は側面図、(c)は正面図、(d)は背面図、(e)は底面図である。

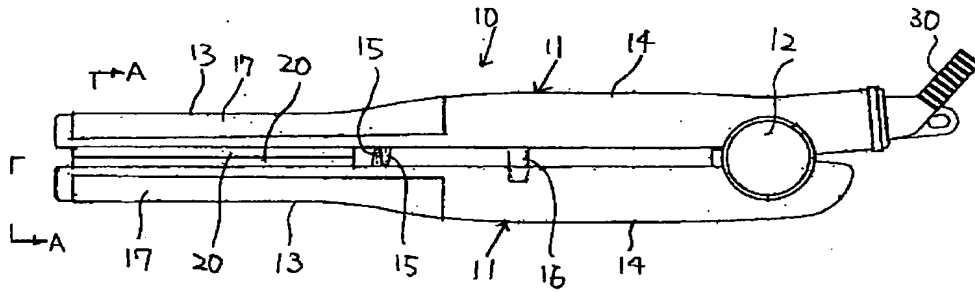
【符号の説明】

- 10 V字型グリップ
- 11 腕部
- 12 ヒンジ部
- 13 偏平部（プレート取り付け部）
- 14 グリップ部
- 15 遮蔽部
- 16 固定部
- 17 保護シート
- 20 ヒートプレート
- 21 本体部
- 22 リブ部
- 23 溝部
- 24 切り込み
- 25 突起
- 30 給電コード
- * 40 ビン

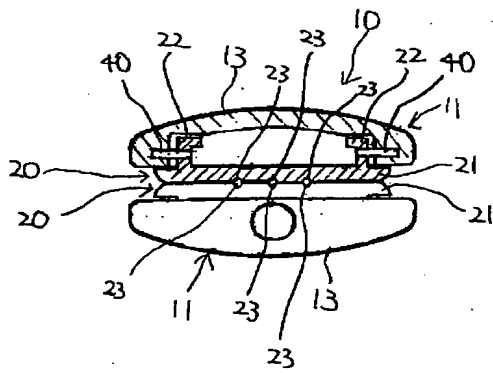
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

